

CIGS 村中璃子セミナー

「10万個の子宮：なぜ子宮頸がん予防ワクチンは使われないのか」

日 時	2019年11月1日（金）15：30－17：00（受付開始15：00）
会 場	キャノングローバル戦略研究所 会議室3 （東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11階）
講 師	村中 璃子（京都大学大学院医学研究科 非常勤講師）
モデレーター	杉山 大志（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）
言 語	日本語

講演概要

子宮頸がんワクチンは世界約140か国で導入され、WHO(世界保健機構)も接種を強く推奨する安全性と効果の確立したワクチンです。しかし日本では、接種後に起きている歩けない、痙攣するなどの症状や、学業不振、不登校などはワクチンによる脳神経障害だと訴える人たちが現れ、政府は同ワクチンを定期接種に定めたまま接種の通知を停止。2016年には、世界初の国家賠償請求訴訟まで提起されています。

背景にあるのは、科学やテクノロジーの進歩とともに顕在化してきた、リスクコミュニケーションの問題です。不作為責任より過誤責任を回避する政府、統計の素養が無く弱者目線の科学報道、仲間の不正に甘いアカデミア、陰謀論の広がりやすいインターネット空間、かぎカッコつき「専門家」の率いる市民運動など、問題が複雑に入り組むなか本講演では、優れた科学やテクノロジーであっても普及が阻まれる状況はどう生まれるのか、科学やテクノロジーに携わる人や企業はどう対処すればよいのか、こうした状況を防ぐためにできることはあるのか、子宮頸がんワクチンを事例に考えます。

プログラム

15:30-15:35	趣旨説明 杉山 大志（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）
15:35-16:30	講 演 「10万個の子宮：なぜ子宮頸がん予防ワクチンは使われないのか」 村中 璃子（京都大学大学院医学研究科 非常勤講師）
16:30-17:00	質疑応答と討論 モデレーター：杉山 大志（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）



講師紹介

京都大学大学院医学研究科非常勤講師。一橋大学社会学部修士修了、北海道大学医学部卒。医師免許取得後、WHO（世界保健機関）の新興・再興感染症チームの勤務等を経て、医療問題を中心とした執筆・講演活動始める。2017年、ジョン・マドックス賞を日本人として初受賞。著書に『10万個の子宮：あの激しいけいれんは子宮頸がんワクチンの副反応なのか』（平凡社、2018年）。